

サッカーと相撲のキャリアサポートの比較研究

A comparative study on the carrier support system between the professional soccer and sumo league

1K04A187-3

波多野 雅人

指導教員

主査 木村和彦先生

副査 武藤泰明先生

【緒言】

2007年10月、2002年のサッカーに続いてNPB（日本野球機構）がキャリアサポートセンターを発足した。今、アスリートに対するセカンドキャリアサポートが注目されつつある。

アスリートに対するセカンドキャリアサポートとは、従来では文字通り現役を引退したスポーツ選手の再就職を支援する行動だけを指す言葉であると受け止められてきた。しかし近年ではアスリートの再就職活動を円滑に行うには、選手の現役時代から、引退後の進路を考えさせる意識づけが重要になってくると考えられるようになった。

しかし国内のアスリートに対するキャリアサポート体制は世界規模で比べると未だ整ってはいない。このままでは競技に力を注いできた選手にとって、引退後の自分の将来に不安を抱いてしまう。このような状況では、アスリートの競技への集中力の妨げに繋がり、競技能力向上への弊害に関わる。さらには将来が不安定な競技であると、世間が認知してしまうことによって、その競技自体を続ける人口の減少にも繋がり、全体の競技力低下も起こりうる。このままでは選手個人だけでなく、競技界全体にとってもマイナス効果が働いてしまう。これを防ぐためにも、選手のキャリアサポート問題を選手個人として考えるのではなく、チームや協会が一緒になって解決していくべきだと考えた。

本調査はサッカーと相撲という2種類のスポーツの現段階でのキャリアサポートをそれぞれ研究し、両者の特徴を比較、考察してアスリートに対するキャリアサポートに必要な要素を探る。そして、アスリートに対して理想とされるキャリアサポートのモデル提示を目指す。

【研究方法】

サッカーと相撲、それぞれのキャリアサポートの特徴を明らかにするため、両者の関係組織にインタビュー、質問紙等で調査を行い、集めた資料で考察を行う。

【調査対象】

〈サッカー〉

① CSC(キャリアサポートセンター)

調査方法:代表者にインタビュー調査

② Jリーグ各クラブチーム

調査方法:各クラブへ郵送による質問紙調査

〈相撲〉

① 日本相撲協会

調査方法:代表者に電話によるインタビュー調査

② 相撲部屋

調査方法:相撲部屋へ電子メールによる調査

【結果と総括】

サッカーはCSC発足から6年が経過し、初めはキャリアサポートを敬遠していた選手やチームも少しずつだが、興味を持ち始めている。CSCは退団が決まった選手には、合同トライアウトの紹介、退団後の進路相談を行っている。一方、現役の選手には将来に役立つキャリア教育を中心に行っており、チームとの連携も徐々に取れつつある。国内で組織的にキャリアサポートを行っている機関としては先進的であることが明らかとなった。しかしキャリアカウンセラーの人材不足もあって現役選手に対するキャリア教育は未だ不十分である。

相撲はサッカーのようにキャリアサポートを専門に取り扱う機関は存在しない。それでも日本相撲協会は、現在のところキャリアサポートに関して問題はないという。その理由として、多くの力士が自分のことを気に入ってくれる後援会、力士の地元の人に仕事を紹介していることが明らかとなった。このような傾向の背景には、力士の稽古場の開放や地方巡業による地域住民との積極的な交流で力士の人間性が相撲の文化的価値とも相成って、世間の人々に評価されたからだと考えられる。しかし人格的に優秀だと評価される力士だが、相撲界での組織的なキャリアサポートが無ければ、力士の将来の選択肢を狭めることになる。力士の将来の視野を広げるには、組織によるキャリアサポートは必要と考えられる。

以上のことから、アスリートのキャリアサポートには「アスリートの人格形成」と「組織による専門的なキャリアサポート」が重要だといえる。この2点と、本研究で調査したことを踏まえて、アスリートへの理想のキャリアサポート体制構築に必要な要素を4つ提示することができた。

①.指導者や統括組織のアスリートに対するキャリアサポート意識の向上

②.スポーツ組織にキャリアサポート専門の部署を設置

③.外部との交流の強化

④.アマチュアから、プロリーグまでスポーツ界全体の協調